

# 新たな目標

工学府機械知能工学専攻M1 梶原 将太



韓国で開催された国際学会 (ICCASS2014) に参加してきました。学会自体は平成26年度10月22日から25日の間開催され、私は発表前日の23日に韓国に入国しました。今回の国際学会は自分にとって初めての挑戦でした。

福岡空港からソウル空港まで飛行機で移動し、チェックイン後、夕方からホテルの近所を1人で散策しました。英語表記や店内の様子からなんとなく情報をくみ取り、1人で買い物や食事をすることができました。とは言っても、もちろん韓国語を使いこなすことはできませんので、簡単な英語やジェスチャーで、どうかやり取りができた感じでした。「大

事なのは気持ち」って言葉を耳にしたことがあります。本場にそうだなって感じました。ジェスチャーのみでも気持ちを伝えることは可能なのです。まあそれでも、きちんと言語で気持ちを伝えるほうが断然有効なのですが。

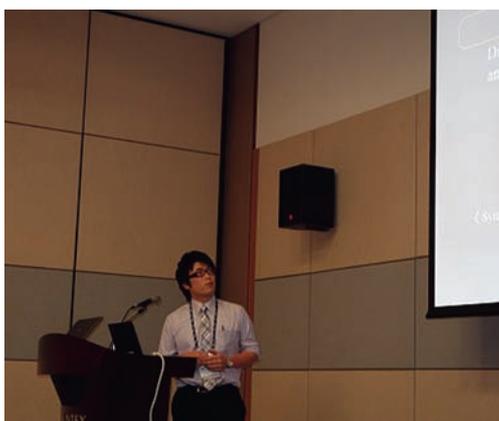
発表自体は、自分の予想よりも遙かに、思い出すと笑っちゃうくらい緊張してしまいました。会場の雰囲気のにめれたのか、自分が甘くみていたのか、理由はいろいろあるのだと思いますが、とにかく緊張しすぎました。練習の時よりも1分以上早く自分のプレゼンが終了していたので、よほど早口になっていたのだと思います。質疑応答にもあまり答えられませんでした。でも、落ち着いて振り返ると、「もつとできたはずなのに」「なんで簡単な質問に答えられなかったのだろう」と後悔の念が押し寄せました。

学会終了後のバンケットでは、自分とは場違いだと思ってしまうほど豪華な会場と食事でした。そして、最後には授賞式の時間が設けられていました。私は「Student Best Paper Award」という、いわゆる学生優秀論文賞にノミネートされており（事前通知あり）、発表の内容を審査員の方々が審議し、ノミネート9人の中から5名選ばれます。私の手応えとしては、質疑応答があまり上手くできなかったため受賞は諦めていたのですが、会場に設置してある大きなスクリーンに「Winner」そして「Kajihara Shota」の私の名前

でも、評価していただいたことに感謝し、素直に、本当に素直にうれしかったです。金教授、そして帰国後に報告した親も大変喜んでくれました。ただ、私としては、研究内容も発表内容も今回は納得したレベルまで達していません。なので、必ずリベンジを果たしにまた国際学会に挑戦したいと、今は強く思っています。今回の国際学会の初挑戦を経て、私の大学院生活の新たな大きな目標がでいたことは、本当に貴重なものを得られたと思います。

今回の国際学会の初参加に関しまして、本当に多くの方々のお力を借り

ました。私一人では到底叶わなかった出来事だと思えます。論文執筆や発表、参加に関する手続き、本当に多くの面で助けていただいた金教授、並びに奨学金を援助していただいた明専会に厚くお礼申し上げます。（平成26年11月記）



発表の様子



授賞式にて